北琉球沖縄語伊平屋方言のアクセント体系を考え直す

サルバトーレ・カルリノ (大東文化大学)

1

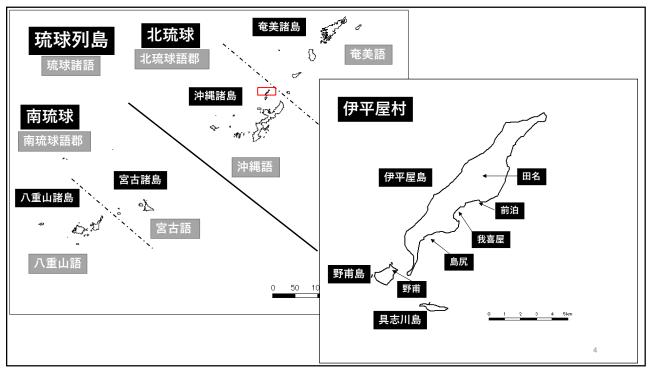
1

本発表の概要

- 伊平屋と伊平屋方言の概要
- 音韻体系と表記
- 今までの記述
- 調査概要
- •新しいデータの分析
- 結論・今後の課題

2

伊平屋と伊平屋方言



伊平屋と伊平屋方言

- ・伊平屋は人口は1,235人、世帯数594世帯(令和2年4月)。
- そのうち65歳以上325.
- 系統的に沖縄語に所属する。
- 主な話者層は50代以上だと考えるならば、話者数は300~400 人程度と思われる。

.

5

音韻体系

6

音素目録

	両唇	歯	歯茎音	硬口蓋	軟口蓋	正門
破裂	pp bb	t t dd			k k gg	??
鼻音	mm	nn~ɲ~ぃ~m				
弾き		rr~r				
摩擦	fф	ss~ç				hh~ç
破擦			cts	čtç~ts		
				zz~dz		
接近	ww			jj		

	前	中	後
狭	ii		uu
半狭	ee		00
広		aa	

7

音節とモーラ

1音節語の構造の例語前語頭子音 オンセット音節核コーダ モーラ数

	(P)	(C_0)	(C ₁)	(G)	V_1	(V_2)	(C_2)		
	(μ)			μ	μ	μ			
手			t		i	i		2	
声			k		u	i		2	
天			t		i		n	2	
子			k	w	a	а		2	
芋	?	n	m		u	u		3	
溝	?	n	Z		0	0		3	
土	?	n	č		a	a		3	
モーラ		(u)			u	u	u		

少なくとも**2**モーラ (最小語制約)

Q

音節とモーラ

1音節語の構造の例

Ē		前語頭子音	オン	セット		音節核		コーダ	モーラ数
		(P)	(C_0)	(C ₁)	(G)	V_1	(V_2)	(C_2)	
		(μ)			μ	μ	μ		
=	É			t		i	i		2
Ħ	旨			k		u	i		2
Э	₹			t		i		n	2
=	7			k	w	а	a		2
=	Ė	?	n	m		u	u		3
洋		?	n	Z		0	0		3
Ⅎ	Ł	?	n	č		a	а		3
₹	- ーラ		(µ)			μ	μ	μ	

- a)Pに?のみが立つ(このスロットにしか立てない)。 b)/b/ /k/ /g/ /z/ /č/ /d/ /n/ が C_1 を埋めるときにだけ C_0 に/n/が立つことができる。 c) C_1 にいかなる子音が立つ。

- d)(G)にglideが立つ。 e)V1, V2に母音が立つ。
- f)コーダに/r/,/?/以外いかなる子音が立つ。ただし、語末には/n/のみが立つ。

9

音節とモーラ

1音節語の構造の例

語	前語頭子音	オン	セット		音節核		コーダ	モーラ数
	(P)	(C_0)	(C ₁)	(G)	V_1	(V_2)	(C_2)	
	(μ)			μ	μ	μ		
手			t		i	i		2
声			k		u	i		2
天			t		i		n	2
子			k	w	a	а		2
芋	?	n	m		u	u		3
溝	?	n	Z		0	0		3
土	?	n	č		a	а		3
モーラ		(11)						

- a)Pに?のみが立つ(このスロットにしか立てない)。 b)/b/ /k/ /g/ /z/ /č/ /d/ /n/ が C_1 を埋めるときにだけ C_0 に/n/が立つことができる。

- c)C1にいかなる子音が立つ。 d)(G)にglideが立つ。 e)V1, V2に母音が立つ。 f)コーダに/r/,/7/以外いかなる子音が立つ。ただし、語末には/n/のみが立つ。
- a) P モーラを常に担わない。
- b) C₀ 常にモーラを担う。
- c) C_1 モーラを常に担わない。
- d) V₁と(V₂) は常にモーラを担う。
- e) (C₂) は常にモーラを担う

表記

・本発表でCarlino(2019)の分析にもとづいた、前のスライドで示した音素表記を使用する。

11

11

伊平屋方言のアクセント体系 の概要・問題点

伊平屋方言のアクセント体系の概要・問 題点

- 発表者は今まで伊平屋方言のアクセント体系の記述を行ってきたが、まだ未解決な問題が残っている。
- •問題は伊平屋方言の名詞で区別できるA型、B型、C型という3つのアクセント型のB型名詞のアクセントの実現である。

13

13

伊平屋方言のアクセント体系の概要・問 題点

- 発表者は今まで伊平屋方言のアクセント体系の記述を行ってきたが、まだ未解決な問題が残っている。
- •問題は伊平屋方言の名詞で区別できるA型、B型、C型という3つのアクセント型のB型名詞のアクセントの実現である。
- この問題について、新しいデータに基づき、分析と解決策について考える。
- 本発表では名詞のアクセント、特に問題となるB型名詞のアクセントの実現を中心に分析する。

伊平屋方言のアクセント体系の概要・問 題点

- 今まで発表者は伊平屋方言を、上野(2012)の類型に基づいた 分類でいえば、3つのアクセント型を区別する3型アクセント であると記述してきた(Carlino 2018a, b; Carlino 2019, Carlino 2022)。
- これらの形をA型、B型、C型と記述してきた。
- ・ただし、1音節名詞にはA,B型という2つの形しかない。
- モーラがTBU
- 伊平屋方言における「アクセント」と呼ぶものは、語ごとに決まっている、弁別機能を持つ上昇する音調の有無と位置。

15

15

系列との対応

- A, B, C型は松森(2012)のA,B,C系列別語彙に対応する。
- 例外としてC系列の1音節名詞はA型もしくはB型として実現する。
- ・以下の名詞はC系列だが、A,Bとして実現する。

A型 ?waa「豚」

B型 hai「針」

B型 kui「声」

16

アクセント型別の音節構造的特徴

• B型名詞とC型名詞では音節構造レベルでの特徴が見られる。

17

17

アクセント型別の音節構造的特徴

- 単独発話において語末音節が母音で終わるB型の名詞には母音延長が見られる。
- 助詞が後続すると、母音の延長が起きない。
- ごく一部のB型名詞では語頭でも母音延長も見られる。このときに語頭の延長は助詞が後続しても保持される。

Ш jamaa jama=nu

涙 nadaa nada=nu

豆 maamii maami=nu

麦 muuzii muuzi=nu

18

アクセント型別の音節構造的特徴

- C型名詞の2音節名詞は重音節でなければならない。
- これは殆どの場合はCVV構造で実現する。つまり、B型の語末延長と似た現象がおきる。が、VVとCVCの例もある。

CVV naabi「鍋」 tiira「太陽」 saata「砂糖」

VV uumi「海」 uusi「臼」 CVC funni「骨」 gassi「ウニ」

•B型と異なり、この構造はいかなる環境でも保持される。

19

19

伊平屋方言のアクセント体系の概要・問 題点

• 単独発話では、A型の名詞は語頭から高く発音される。B型は語 末モーラにアクセントが置かれる。C型も語末にアクセントを 持つ。

音節	型	意味	単独	=ga	=madi
1	Α	毛	kii	kii=ga	kii=madi
	В	木	kii	kii=ga	kii=madi
2	Α	鼻	hana	hana=ga	hana=madi
	В	のみ	numii	numi=ga	numi=madi
	С	蚤	nuumi	nuumi=ga	nuumi=madi
3	Α	東	agari	agari=ga	agari=madi
	В	日本	jamatuu	jamatu=ga	jamatu=madi
	С	キャベツ	tamana	tamana=ga	tamana=madi

伊平屋方言のアクセント体系の概要・問 題点

• ただし、B型の名詞のアクセント型の特徴を「文節」単位で最終モーラにアクセントを置くと初期の段階に記述した(Carlino 2018a, b)。つまり、助詞が接続すれば、アクセントは文節末に移動する。

音節	型	意味	単独	=ga	=madi
1	Α	毛	kii	kii=ga	kii=madi
	В	木	ki i	kii= ga	kii=ma di
2	Α	鼻	hana	hana=ga	hana=madi
	В	のみ	numi i	numi= ga	numi=ma di
	С	蚤	nuu mi	nuu mi =ga	nuu mi =madi
3	Α	東	agari	agari=ga	agari=madi
	В	日本	jamatu u	jamatu= ga	jamatu=madi
	С	キャベツ	tama na	tama na =ga	tama na =madi

21

21

本発表の目的・問題の所在

• が、追加調査によってこれより複雑な体系をなしていることがわかった。

今までの記述とその問題点

- それは名詞 + 2モーラ助詞+1モーラ助詞(= made=no、方言で= madi=n)の組み合わせでは最終モーラではなく後ろから2モーラ目にアクセントが置かれることがわかった(Carlino 2019)。
 - a) numii
 - b) numii=ma**di**=n

23

23

今までの記述とその問題点

- それは名詞 + 2モーラ助詞+1モーラ助詞(= made=no、方言で= madi=n)の組み合わせでは最終モーラではなく後ろから2モーラ目にアクセントが置かれることがわかった(Carlino 2019)。
 - a) numii
 - b) numii=ma**di**=n
- ただし、=madi=nで分析するとアクセントの置く位置は最終音節になっている可能性があるという問題があった。

今までの記述とその問題点

- また、2モーラより長い助詞、そして1モーラ助詞+1モーラ助詞を使ったデータがなかった。
- A型、C型には、環境を変えても変化がなかった。
- B型の名詞のアクセントの実現を明らかにするため追加調査を 行った。
- その後の追加調査の結果のデータは本発表で紹介する。

25

25

調査概要

調査概要

- データは2017年7月~2022年9月にかけて現地調査・遠隔調査 (スカイプで)によって収集された。
- •初期の調査で五十嵐(2016)『琉球語アクセント調査票 160』の語彙を調査し、そこから拡大した。
- ・主な協力者は伊平屋村字田名の3人の男性。
- •年齢は全員60代前半。

27

27

調査概要

- まとめると今までは以下の環境で調査を行った。
 - 単独
 - 単独=n(も)
 - 名詞=ga/nu
 - 名詞=madi(まで)
 - 名詞=madi=n(までも)
 - 名詞=madi=nu(までの)
 - 名詞=nkan(より)
 - 名詞=ga=ru(主格助詞+焦点助詞)

データの分析

29

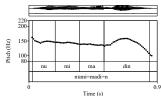
29

データの分析

- •B型の2音節名詞を例に分析する。
- A,C型の名詞はどんな環境でも最初の調査のときと変わらない (A型は最初から高い、C型は語末にアクセントを置く)

名詞=madi=nu

• 以前の調査で2モーラ助詞+1モーラ助詞=madi=nの組み合わせで、 di=nのdiから上昇が見られたため、アクセントの単位が最終音節になる可能性があった。



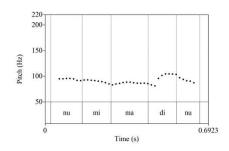
• テストをするため、madi=nuで調査した。

31

31

名詞=madi=nu

アクセントがそのままmadi=nuであることがわかり、madi=nの dinという音節がアクセント付与領域になっているわけではない ことを確認した。



助詞数が問題か、長さが問題か

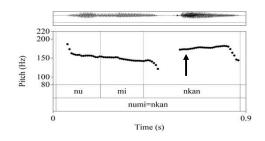
- ここで2つの可能性があると思った。
 - 1) アクセントの付与領域は1助詞まであり、それ以降のものは除外される。
 - 2)後続される助詞の単独の長さ、あるいは組み合わせの全体的長さが重要で、3モーラ以上だと後ろから2モーラ目にアクセントが置かれる。
- そこでまた追加調査を行った。

33

33

名詞=nkan

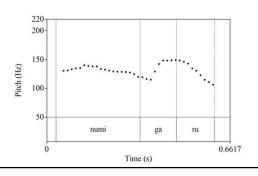
- ・追加の調査で2モーラより長い助詞で調査した。テストのため3モーラ助詞=nkan「より」を選んだ。
- その結果、=nkanの2モーラ目、つまりkaのところにアクセントが置かれることがわかった。



34

名詞=ga=ru

- 最後に、以前の調査で1モーラ助詞の組み合わせのデータがなかったため、主格助詞と焦点助詞=ruで追加調査を行った。
- こうして、この場合も後ろから2モーラ目にアクセントが置かれることがわかった。



35

結論とまとめ

- 結果をまとめると、以下のようになる。
 - a) numii
 - b) numi=ga
 - c) numi=ga=ru
 - d) numi=madi
 - e) numi=ma**di**=n
 - f) numi=madi=nu
 - g) numi=nkan
- b-fを見ると、アクセント付与の領域は1助詞までで、それ以降のものが除外されると考えさせる結果である。
- ただし,=nkanを見ると、助詞のモーラ数も関わると考えられる。

36

結論とまとめ

- 現状ではB型名詞のアクセントの実現は:
 - ・単独、2モーラまでの長さの助詞で文節末にアクセントをおく。
 - 2助詞の連続、あるいは3モーラ以上長いものの場合は後ろから2番めにアクセントを置く。

37

37

結論とまとめ

- また考えられる可能性として:
- 今回調査した=nkanの最終のnは、「よりも」に由来する形で、 つまりもともとnka=nだったが、nが融合した(=nkaという形式 はない)が、音韻的な領域としてまだ除外されている可能性。
- ↑のように分析すれば、「1番目だけ助詞だけが大事」と言えるかもしれない。
- そもそもこのアクセント型に文節末に上昇することさえすれば 結構で、その位置は重要ではない。

今後の課題

•足りないデータとして、2モーラ助詞+1モーラ助詞を調査したが、1モーラ助詞+2モーラ助詞は調査していない問題があり、次に調査するべきである。

39

39

参考文献

五十嵐陽介(2017)「『琉球語アクセント調査票 160 琉球語諸方言アクセント体系の初期調査を目的とした160の調査語」一橋大学大学院社会学研究科博士課程ゼミ発表レジュメ. 一橋大学, 2017 年 5 月 30 日.

五十嵐陽介(2019)「日琉語類別語彙(2019年05月17日版)」電子データ https://researchmap.jp/muuu4evwk-1856949/

上野善道 (2012) 「N型アクセントとは何か」『音声研究』16 (1):44-62.

Carlino Salvatore(2018a) 「伊平屋方言のアクセントについて」国際沖縄研究所共同研究:島嶼間の言語接触の実態解明に向けての基礎的研究成果報告 及び関連研究発表会口頭発表。琉球大学,2018年2月21日.

Carlino, Salvatore (2018b) The three-patterns accent of the dialect of Iheya, Okinawa. Paper read at the Approaches to Endangered Languages in Japan and Northeast Asia: Description, Documentation and Revitalization Symposium. National Institute of Japanese Language and Linguistics, 5 August 2018.

Carlino Salvatore (2019) 『北琉球沖縄語伊平屋方言の文法』博士論文、一橋大学.

CARLINO Salvatore (2023) 「伊平屋」CARLINO Salvatore (2023) 「日琉諸語オンライン辞書」 http://odjl.net (2023年5月更新版)

Carlino Salvatore (2022) Iheya (Northern Ryukyuan) in Michinori Shimoji ed. An Introduction to the Japonic Languages: grammatical sketches of Japanese dialects and Ryukyuan languages, Brill.

松森晶子(2012)「琉球語調査用『系列別語彙』の素案」『音声研究』16(1):30-40.

松森晶子(2016)「複合語アクセントが日本語史研究に提起するもの」『国立国語研究所論集』10:135–158.

謝辞

調査へ協力してくださった方々へお礼申し上げます。

以前、追加調査のデータの分析について貴重なコメントをくださった九州大学下地ゼミの みなさん、東京大学大学院の高城隆一さん、有明工業高等専門学校の山田高明ににお礼申 し上げます

本発表は以下の助成を受けた成果である。

「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」(プロジェクトリーダー 木部 暢子), 外国人特別研究員奨励 「北琉球沖縄語伊平屋方言の電子辞書の構築」受入研究者 下地理則 外国人特別研究員 Carlino Salvatore, 科研費基盤研究(B) 「比較言語学的方法による日本語・琉球諸語諸方言の祖語の再建および系統樹の構築」(研究代表者 五十嵐陽介)

41